

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100223		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム愛敬		
所在地	北海道上川郡愛別町字豊里 2 9 1 - 2 (電 話) 01658-6-6555		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年11月13日

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 3 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 13 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 6人, 非常勤 13人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	16,000~21,000 円	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月31日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名	
要介護 1	1 名	要介護 2	5 名			
要介護 3	7 名	要介護 4	4 名			
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名			
年齢	平均	85.5 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛別町立診療所・当麻町立診療所・愛別歯科医院 他
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、層雲峡を望むJR愛別駅から1km余りに位置し、田園・森林に囲まれ、十勝連峰・大雪連峰の四季折々の美しさが眺望できる、静かで穏やかな環境である。事業所内は広く、明るくゆったりとしており、落ち着いた全木造の建物はぬくもりを感じる。より良いものを常に目指すという職員の言葉に支えられながら、利用者は生活を楽しんでいる。小型犬のダックスフンドが、癒し犬として利用者の生活に馴染んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での改善課題はない。日々一方的なサービスの提供にならないよう、より良い事業所を目指して取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	職員一人ひとりが参加して、全員で協議する場に持ち寄り、討議・検討して作り上げた自己評価を、実践に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議では、情報の開示・報告・意見交換をし、事業所の運営やサービスに活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	あらゆる機会をとらえて、家族から意見や苦情等を聞き取り、ミーティングで話し合っ共有し、速やかに対応している。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	事業所行事である納涼祭に地域住民が参加するほか、老人大学のボランティアや小学生の体験学習等の来訪があり、また、利用者が役場の農業体験に参加するなど、町民との交流は盛んである。地域に密着した存在であることは事業所の誇りであり、地域に支えられている実感に日々感謝している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理解しやすい、やさしく簡潔な文言で、独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、朝のミーティングで理念を唱和し、理念を常に心に留めながら、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所のほとんどの行事に地域住民が参加し、交流・支援を得ている。小学生や高校生のボランティア等からも理解を得ており、交流を続けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は、一方的なサービスの提供にならないための必要不可欠なものと理解している。改善点があれば、速やかに改めるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議では、事業所からの報告が主であるが、情報を交換したり話し合いを重ねるなどし、相互の理解を深めている。	○	会議録はあるが、議題の項目のみの記録になっており、今後は、話し合いの内容や出された意見等の、細かい記述が期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所設立前より、市町村とは情報の提供や交流があり、連携がとられている。事業所行事への参加協力や、事業所だよりの配布、町民への啓蒙などに協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時など、可能な限りの機会をとらえて、利用者の生活状況・金銭管理等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の際に、家族から意見を聞き取る機会を作り、そこで得た意見や要望は速やかにミーティングで話し合い、実践に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内の異動はあるが、利用者への配慮を欠かさないとともに、日ごろから、各職員と利用者は馴染みであるため、ダメージはほとんどない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部および内部の研修等は、職員のレベルに合わせて計画するなど、職員育成に配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、同業者と交流する機会を持っており、ネットワークづくりや勉強会を実施している。同法人事業所のみならず、他の事業所と訪問交流し、質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が、事業所に馴染んでから、安心して利用開始となるように、事前の事業所への来訪を勧め、他の利用者と触れ合うよう配慮している。また、利用についての相談も受けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の残された能力・可能性を認め、利用者が希望する作業等を支えるとともに、利用者の長年の経験から職員は学ぶなど、なごやかな関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとの関りを密にすることで、希望や思いをつかみ取るよう努力している。日ごろの利用者の表情や行動からもくみ取るよう、個々に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの状況を、全職員が様々な角度から把握し、月2回のカンファレンスで、本人・家族の希望を採り入れ、話し合っ て作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度、アセスメント内容の検討をし、3ヶ月毎の見直し、6ヶ月毎の計画作成を実施している。また、状況の変化に応じて、家族との話し合いで新しい計画を考え、採り入れている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・買い物・見学・行事参加時の送迎などを実施し、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による、月2回の往診があるほか、協力医療機関の診療もある。利用者一人ひとりに必要な医療の対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、家族および利用者に説明している。職員は、重度化や終末期の有り方を、微妙で大切な問題ととらえ、場面に応じて、医療者を交え何度か話し合い、共通理解をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録類は、決めた場所に保管し、利用者等が入ることはない。また、職員は、利用者一人ひとりの思いやこだわりを大切にしながら、対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員や事業所のきまり・時刻等を優先せず、利用者のペースを大切に、その日の体調や希望を聞き取りながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立を表示しており、それを見ることが利用者の楽しみのひとつとなっている。また、利用者は、食材の準備・味付け・盛り付け・後片付け等を、力に応じて楽しみながら行っている。全員で「いただきます」と唱和し、食事の感想を話し合っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を基本としているが、希望によって毎日の入浴にも対応できる。赤いタイルの浴槽を設置するなど、入浴が楽しくなるような配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のその日の体調や気分によって、日々対応している。職員は、利用者が生活歴や希望を十分に活かした役割を担い、楽しめるよう、考えながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・食材の買出し・ドライブ・見学・外食など、希望に沿った外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠し、日中は鍵をかけない。利用者の自由を束縛せず、心理的圧迫の弊害をよく理解した対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、利用者と共に避難訓練を実施している。また、避難場所として、近隣の農家の協力が得られるよう連携が取れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養・水分の摂取量を記録している。利用者の身体状況を把握して、必要量を確認している。	○	栄養バランスに配慮しているが、今後は、町の栄養士によるチェックや相談を活かすことを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間や廊下は、広くてゆったりとしており、居心地が良い。天井の明り取りや大きな窓は、自然空調ともなっており、季節の移り変わりが楽しめる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、使い慣れた馴染みのたんすや椅子、仏壇を持ち込んでおり、マイルームとしての思い入れを活かすような、住みやすい工夫をしている。		

※  は、重点項目。